

サンフロント21 懇話会

〒410-8560
沼津市魚町1番地 サンフロント5F
静岡新聞社・静岡放送
東部総局内
事務局
TEL.055-962-6520

2023.1.26 No.128



静岡新聞社・静岡放送 社長
大須賀 紳晃

新年あけましておめでとうございます。昨年も新型コロナウイルス感染の収束が見えない1年となりました。コロナ禍に加え、ロシアのウクライナ侵攻によって国際情勢が不安

定さを増し、経済の混乱を招いています。一日も早い平和的解決が望まれます。日本国内では急激な円安や生活必需品の値上げの波が日常生活を直撃し、本年も引き続き経済状況の不透明感が懸念されます。

一方で明るい話題もありました。昨年末のサッカーW杯で日本代表は決勝トーナメントに進出し、その戦いぶりが私たちに感動と喜びを与えました。悲願のベスト8はかありませんでしたが、「新しい時代」を感じさせてくれました。4年後に「新しい景色」を見せてくれることを期待します。

さて、今春には統一地方選が行われます。県内では県議選、6市町長選、14市町議選が予定されます。最も生活に身近な選挙です。地域の現状や課題に改めて頭を巡らせ、将来を考える機会にしてほしいと考えています。

県東部伊豆地域では沼津駅の高架化事業をはじめ各プロジェクトが始動し、地域の将来像をどう描くかが問われています。サンフロント21懇話会としましても、未来の都市像を示せるよう取り組んでまいります。

懇話会は29年目を迎えます。会員の皆様の明るい笑顔と共に、新しい時代を切り拓くための地域活性化策を支援していきます。卯年にちなみ、県東部伊豆地域が一層の飛躍・発展できますよう、会員の皆様、今年もご支援、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



サンフロント21懇話会代表幹事
静岡中央銀行 社長
清野 眞司

新しい年を迎え、会員の皆様には心よりお慶びを申し上げます。県東部の活性化に向けて、さまざまな提言を続けているサンフロント21懇話会は

29年目を迎えます。設立30年に向けて、ことしはその存在感を高める年にしていきたいと思えます。

昨年、当地域では長年にわたり歩みを止めていた沼津市の鉄道高架化事業が、ようやく進み始めました。それに伴い、JR沼津駅南口の商店街再開発や駅北口の大型商業施設跡地の活用といった動きが出ています。また富士山周辺のウーブンシティ構想、三島の駅南口東街区再開発、伊豆縦貫自動車道の延伸など、地域の未来を築く計画や事業が見えてきました。こうした動きが東部地域全体の発展につながるよう、当懇話会はこれまでも増して、実効性のある提言活動に取り組みたいと考えています。

視点を国内外に転ずれば、新型コロナウイルス禍は、完全な収束への見通しは依然として立たず、国際情勢はロシアによるウクライナ侵攻の長期化などで不安定さが増えています。これらを受けた急激な円安や、それに伴う値上げの波が日本経済をも直撃しています。

そうした中で県東部を、より活力あふれる地域にするためには、柔軟で独自性にあふれた新たな発想と果敢な行動力が求められます。ことしも会員の皆さまのさらなる結束と、懇話会活動への一層のご支援、ご協力を宜しくお願い致します。

新年のご挨拶



静岡県知事
川勝 平太

明けましておめでとうございます。

皆様には、お健やかに新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

昨年もコロナに始まり、コロナに終わるという事態が続きました。感染拡大防止に向けて、県民の皆様の御協力、医療従事者の方々の御努力に深く感謝申し上げます。また、台風15号に伴う記録的な大雨により被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。

今年は、富士山世界遺産登録10周年を迎えるとともに、全国の自治体の中から本県が「東アジア文化都市」に選定され、様々な文化芸術事業を実施します。日本の文化の中心、いわば「文化首都」として1年にわたり、「多彩な文化が花開く“オープンガーデンシアター”」というコンセプトのもと、日本の宝である富士山を中心に、日本文化の様々な魅力を国内外に発信していきます。

新たな総合計画では、基本理念である富国・有徳の「美しい“ふじのくに”」づくりの柱に「静岡県をSDGsのモデル県に」を掲げています。安心して生活ができる日本は世界から見ればSDGsの達成に向けた模範となる国であり、世界から賞賛される人材、地域資源を持つ本県は間違いなくモデル県といえます。2050年のカーボンニュートラルの実現に向けて、先端技術や新たな仕組みを積極的に取り込み、エネル

ギーの多様化を推進し、企業の脱炭素経営への転換を支援してまいります。

人材育成については、今春、県内初の夜間中学「県立ふじのくに中学校」が開校します。年齢も性別も国籍も関係なく、学びたいと思う誰もが十分に学べる場を提供し、一人一人が学ぶ喜びを実感できる学校づくりを進めていきます。また、静岡社会健康医学大学院大学に博士課程を設置し、医療・保健・福祉の向上に貢献できるプロフェッショナル人材を育成していきます。

豊かな暮らしの実現に必要なものの一つは、食べ物です。山梨・長野・新潟の3県との連携による「バイ・山^{やま}の^{くに}洲」の推進により、新たな広域経済圏を形成し、「生産」と「消費」の好循環を創出してまいります。

コロナ禍によりデジタルの可能性が一気に高まり、働き方や暮らし方の多様化が進んでいます。交通インフラとデジタル化が整うことで、すべての人々の不便が解消できるオープンパブリックガーデンを目指してまいります。

防災については、県民の皆様の生命や財産を守るため、南海トラフ巨大地震による犠牲者の最小化や流域治水によるハード・ソフトの両面で県土強靱化に取り組むとともに、国や市町、防災関係機関との連携体制の更なる強化を図ってまいります。

本年は、本県が日本の文化の顔として、文字通り世界の檜舞台に立つ門出となる年です。皆様方が主役です。誰一人代わりになる人はいない、かけがえのない存在です。一緒に素晴らしい日本の理想郷「ふじのくに」を創ってまいりましょう。

結びに、今年一年の皆様の御健勝と御多幸を心からお祈り申し上げ、年頭の御挨拶といたします。



沼津市長
頼重 秀一

新年あけましておめでとうございます。

令和5年の年頭に当たり、謹んで新春のお慶びを申し上げます。

昨年は、新型コロナウイルス感染症が拡大を続けており、本市においても、まだまだ予断を許す状況ではありません。

しかし、そのような中におきまして、沼津夏まつり・狩野川花火大会が3年ぶりに開催されるなど、少しずつ日常を取り戻す取組が進められてきた一年でもありました。

さて、本年7月1日、本市は記念すべき市制施行100周年を迎えます。

大正12年7月1日、本市は沼津町と楊原村が合併し誕生し、周辺の町村との合併を経て、平成17年に現在の本市に至っております。

そこには、先人達の大変なご苦勞と弛まぬご努力がございました。この市制施行100周年を機に、改めて先人たちに感謝と敬意を表するものでございます。

また、市制施行100周年の本年は、市内各所で様々な催しが予定されております。7月には、プラサヴェルデにおきまして、本市の自然、歴史、文化などを発信する記念イベントを開催いたします。

さらに、10月には、沼津港におきまして、「みなとオアシスSea級グルメ全国大会 in 沼津」が開催されます。

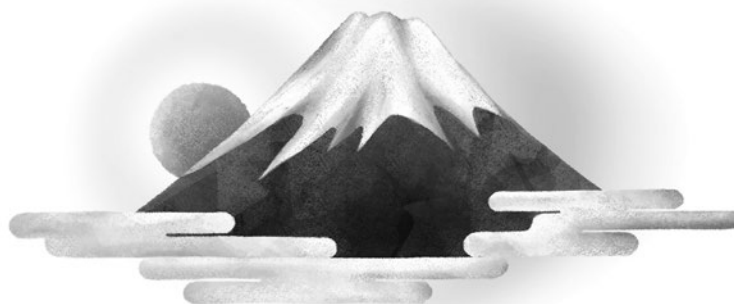
この市制施行100周年を、皆様に本市への誇りと愛着を深めていただき、皆様と共に喜び祝う機会としてまいります。

また、本年は、新貨物ターミナルの本体工事の着手が予定されるなど、沼津駅周辺総合整備事業の推進を市民の皆様にご実感いただける年となってまいります。

加えて、現在建設中の新総合体育館も3月にオープンいたします。市民の皆様の健康づくりの拠点となることはもちろん、プロスポーツ大会の誘致なども進め、市民の皆様が生涯にわたってスポーツに親しむことのできる拠点としてまいります。

市制100周年の節目となる本年、沼津市は、次の100年への新たな一步を踏み力強く出してまいります。

結びに、この記念すべき一年の、市民の皆様の御健勝、御多幸を心よりお祈り申し上げ、年頭の御挨拶とさせていただきます。



われら **卯** 年生まれ

2023年(令和5年)は、十二支が卯(うさぎ)、十干では癸(みずのと)です。

これらを組み合わせた干支(えと)では癸卯(みずのと・う)となります。

癸卯は「冬の門が開き、飛び出る」とされ、種子が量ることができるほどの大きさになり、春の間近でつぼみが花開く直前という意味があるとされています。これまでの努力が花開き、飛躍、向上する年になることを期待します。

卯年生まれの人は「強運の持ち主」といわれています。そんな卯年生まれの会員の皆様に、新年の期待や抱負を寄せていただきました。



伊東市長
小野 達也
昭和38年2月23日生まれ

あけましておめでとうございます。

昨年は、エネルギー価格や物価が高騰し、経済的に大変厳しい一年でありましたが、皆様が今後の経済回復へ期待していることと思います。

市民が主役の明るい伊東をつくり上げるため、全力で市政運営に邁進するとともに、新型コロナウイルス感染症の収束と世界情勢の安定を願い、ご挨拶といたします。



熱海市長
齊藤 栄
昭和38年3月17日生まれ

謹んで新年のお慶びを申し上げます。

私は今年の3月で還暦を迎え、私が市長に就任してから二度目の卯年となります。今年の「癸卯」にあやかり、私が昨年9月、5期目の再選を果たした際の所信表明に掲げた「試練を乗り越え、熱海の新たな発展へ」に向け、初心を忘れず、全身全霊で市政に取り組んでまいります。



株式会社耕文社
代表取締役社長

長澤 一成

昭和38年7月11日生まれ

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて生まれて五回目の年男となる今年は、いよいよ還暦です。同窓生と会えば自然と昔話に花が咲く歳となったわけですが、私はこの年になっても、夢と希望を持って、それに向かっていくチャレンジ精神を失いたくないと思っています。今年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

.....



野村證券株式会社
沼津支店長

大石 顕志

昭和50年5月8日生まれ

謹んで新年のお慶び申し上げます。

山と海、食事、産業も盛んな素晴らしい地に来て、2度目の新年を迎えました。世界を取り巻く経済環境も新しい時代に向かっていると感じます。私自身も視野を広く持ち、皆様とのご縁を大切しつつ、新しいチャレンジを続けていきたいと思えます。本年もよろしく願いいたします。

.....



株式会社杉山鉄工
代表取締役社長

杉山 雄一

昭和50年12月19日生まれ

あけましておめでとうございます。

何度目かの年男を向かえ、光陰流水の感に堪えません。ここ数年、思いも寄らない様々な事が起こりました。

その中で、従来の常識や価値観などだけでは、対応が難しい場面も増えてきています。だからこそ、確固たる自己を持ち、しなやかに今を楽しむ気持ちを強く持って行きたいと思えます。



静岡県議会議員

伴 卓

昭和62年5月10日生まれ

初春の訪れを心よりお慶び申し上げます。

富士地域の皆様から県政へ送り出して頂き6年が経とうとしています。また本年は改選年でもあり、これまでの取り組みを反芻しながら、次にどのような挑戦ができるのか、日々ワクワクしながら過ごしております。今年も県政発展に光を当てるべく、若い力で頑張っております。

.....



裾野市長

村田 悠

昭和62年5月25日生まれ

あけましておめでとうございます。

市長就任から約1年、人と企業に選ばれる裾野市を目指し、発展の礎を築くため、市政に専心してまいりました。

本年も人と企業に選ばれる裾野市の実現に向け、新たな施策を実施していきます。裾野市を含めた県東部地域全体が飛躍する一年となることを願っております。



岸田首相、求心力回復狙う 統一地方選が試金石



共同通信社
政治部長

杉田 雄心

2023年の国内政治は岸田文雄首相が求心力を回復できるかどうかが焦点だ。5月に広島市で開く先進7カ国首脳会議

(G7サミット)や看板政策「新しい資本主義」の具体化で実績をアピールし、内閣支持率が低迷する苦境からの局面転換を狙う。野党第1党の立憲民主党は日本維新の会との国会共闘を継続し、防衛費の大幅増に伴う増税方針などを巡って政権をただす構えだ。4月の統一地方選が当面の試金石となる。

通常国会は1月下旬に開会が想定され、首相の施政方針演説に続いて23年度予算案審議が始まる。首相は昨年未決定した国家安全保障戦略など安保3文書を踏まえ、防衛増税の必要性を訴える見通しだ。世界平和統一家庭連合(旧統一教会)問題や物価高・円安対応も引き続き論点となる。立民は、相手国領域内でミサイル発射を阻止する反撃能力(敵基地攻撃能力)保有に関し「攻撃対象や着手の認定が抽象的だ」などと問題視する。

統一地方選は道府県と政令指定都市の首長、議員選挙が4月9日、政令市以外の市、特別区、町村の首長、議員選挙が4月23日に投開票される。知事選は北海道、神奈川、福井、大阪、奈良、鳥取、島根、徳島、大分の9道府県で予定される。自民党が道府県議選で議席の半数を確保できるかどうか注目される。4月23日には国政の統一補欠選挙として衆院和歌山1区や山口4区の補選が投開票される。

G7広島サミットは5月19～21日の日程。ウクライナ情勢や世界的な物価高騰、エネルギー問題が議題となりそうだ。被爆地選出の首相が目指す「核兵器なき世界」への道筋を含め、議長としての手腕が問われる。

昨年の4閣僚更迭や防衛増税問題で政権の結束にきしみが生じている。首相率いる岸田派は党内第4派閥で、政権基盤は決して強くない。支持率の低迷がサミットのころまで続けば「岸田降ろし」や「サミット花道論」、さらには事態打開への衆院解散論が表面化する可能性もある。統一地方選と同じ年に衆院選があれば、2003年の小泉政権時代以来となり異例だ。

不安抱え回復の道筋探る =2023年の日本経済



時事通信社
経済部長

清水 泰至

2023年の日本経済はコロナ禍で抑制されていた個人消費の復調が続

き、概ね堅調な動きが予想される。ただ、歴史的なインフレに悩む欧米諸国は急ピッチで利上げを続けている。目先の景気よりもインフレ退治を優先する姿勢を明確にしており、海外発の下押し圧力が日本に及ぶ懸念も否定できない。不安材料を抱えながら本格的な景気回復の道筋を探る1年となりそうだ。

2022年7～9月期の日本の実質GDPは前期比で年率0.8%のマイナスとなった。コロナ感染第7波や物価高がGDPの過半を占める個人消費の足を引っ張った形だ。一方、10月以降は全国旅行支援やインバウンド水際規制の緩和で消費が活性化。23年も消費の底堅さが景気を支える公算が大きい。法人部門ではデジタル化投資に加え、半導体需給の緩和に伴い自動車メーカーの生産も徐々に正常化に向かうとみられている。

こうした動きを背景に、内閣府が23年2月に公表する22年10～12月期のGDP成長率は、民間エコノミストの間では3%を上回るプラスを見込む声が多い。為替や物価動向に左右される面もあるが、23年度(4～24年3月)は1.5%前後の成長率が予想されている。

海外に目を向ければ楽観できない光景が広がっている。米国は8%台、欧州では国によって10%という高インフレに見舞われ国民生活が大きな打撃を受けている。物価の番人である米連邦準備制度理事会(FRB)など各国中央銀行は相次ぐ利上げで景気を冷やし、インフレ高進を抑え込もうと懸命だ。しかし、欧米のインフレは深刻な人手不足に代表される供給面の要因も影響している。中銀がどんどん金利を引き上げて不動産投資などの過熱感を冷ましても、インフレは簡単には沈静化しそうにない。海外の物価高は長期化しそうだ。

経済協力開発機構(OECD)は11月発表の経済見通しで23年の世界全体の成長率を2.2%と予想した。これは22年の成長率予想(3.1%)を下回る水準で、欧米経済の不透明感を反映している。

サンフロント21懇話会

第28回 東部地区分科会

日時

2022年
11月8日(火)

ファルマバレー
プロジェクトが描く未来
－医療田園都市構想

会場

プラサヴェルデ



サンフロント21懇話会は11月8日、プラサヴェルデ(沼津市)で2022年度東部地区分科会を開催した。会員約120人が出席し、県東部に医療健康産業の集積を図る県のファルマバレープロジェクト20周年を記念し、「医療田園都市構想」という新たな将来像に向けた戦略について探った。

第1部では静岡県立静岡がんセンターの山口建総長と、ふじのくに医療城下町推進機構の大坪檀理事長が講演し、第2部のパネル討論では山口氏、大坪氏に加え、長泉町の池田修町長、日本政策投資銀行設備投資研究所の青山竜文上席主任研究員、医療メーカー「タウンズ」の野中雅貴社長が、構想に向けた産学官金の協働について意見交換した。

主催者挨拶



静岡新聞社常勤顧問

谷川 治

本日はお忙しい中、東部地区分科会にご参集いただき、誠にありがとうございます。

本日の分科会はファルマバレープロジェクトが描く未来をテーマに掲げました。ファルマバレープロジェクトは〈世界一の健康長寿県の形成〉という基本理念のもと、静岡県東部地区で静岡県立静岡がんセンターを中心に始まりました。先端医療の提供、高度な研究開発、医療産業の集積等、着実に成果を上げ、東部地域の活性化だけでなく全国トップクラスの医薬品・医療機器の合計生産額等、県内全域に効果を波及させ、新たなイノベーションの創出も期待されています。

当サンフロント21懇話会ではプロジェクトの推進を活動方針に盛り込み、健康寿命の延伸と新産業創出の観点から支援を続けております。本日の基調講演には静岡県立がんセンターの山口建総長、ふじのくに医療城下町推進機構理事長で静岡産業大学総合研究所所長の大坪檀先生をお招きし、パネル討論では各界の代表者にご登壇いただきます。また今回は川勝平太静岡県知事にもご臨席を賜りました。東部地域の発展のため、今後の知事のご尽力に期待する次第です。

当懇話会の活動は今年で28年を迎えました。会員の皆さまのご支援に改めて感謝申し上げますとともに、さらなるご協力をお願いし、主催者のご挨拶とさせていただきます。

懇話会代表幹事挨拶



静岡中央銀行
代表取締役社長

清野 眞司

日頃はサンフロント21懇話会の活動にご理解ご尽力を賜り、この場をお借りし、厚く御礼申し上げます。

ファルマバレープロジェクトは静岡県東部を中心に地域の産学官金を中心に推進しております。2001年に策定されてから20年が経ち、プロジェクト推進と共に世界一の健康長寿県という基本理念の実現に一步ずつ近づいているように感じております。

プロジェクトは医療城下町から医療田園都市(メディカルガーデンシティ)へと更なる飛躍と発展に向け、動き始めています。サンフロント21懇話会はこれまでも同プロジェクトの推進に向けた支援に取り組んでまいりましたが、今後も継続し、県東部地区の発展につなげたいと考えております。

我々の生活は徐々に日常に戻りつつありますが、まだコロナ禍が続く中の対応を求められています。懇話会も会員や県民の皆さまの健康・安全を最優先に、臨機応変に対応してまいります。皆さまの一層のご支援ご協力をお願いし、代表幹事の挨拶とさせていただきます。

来賓挨拶



静岡県知事
川勝 平太氏

「こちよく 晴れたる秋の青空に いよいよ映える 富士の白雪」—これは大正天皇の御歌であります、このような美しい日にファルマバレープロジェクト20周年のお祝いができること、誠に同慶の至りでございます。

ファルマバレーはカリフォルニアのシリコンバレーよりもはるかに美しいですね。以前、モンゴルの大統領夫人がお越しになった際、富士山の雪化粧と眼下の駿河湾の光景に、心から感動されていました。富士山が世界遺産になって来年で10周年。伊豆半島はジオパーク。したがってここは日本で最も美しい景勝地の一つであり、この地をどうしていくか20世紀末に結成されたサンフロント21懇話会が、21世紀の県東部について構想を進めてこられました。このテーマに最初から携わっておられた大坪先生や、山口建総長という素晴らしい人材を得てがんセンターとファルマバレーセンターが立ち上がり、今日に至っております。

プロジェクトは単に施設が立ち上がっただけでなく、しっかりと計画を立て、人づくり、モノづくり、まちづくり、世界展開と戦略立ててきちんと進めておられます。当初の医療城下町という構想、日本最大の城下町といえば江戸ですね。幕末に開港し、海外からやってきた人が、当時の江戸がロンドンと同じ100万人都市であるにもかかわらず、煙まみれのロンドンと違い、山紫水明の美しい町であったことに感動し、「ガーデンシティ」と命名しました。一方、幕末にイギリスへ渡り、ロンドンやマンチェスターの工業都市を觀た日本人は「これが世界の先端都市なのだ」とまったく逆の評価をしたのです。

イギリスではエベネザー・ハワードという経済学者が「明日の田園都市」という本を書いてガーデンシティを推奨し、120年前にレッチ・ワースとウェリン・ガーデンシティという2つの田園都市を、まさに江戸をモデルに創り上げたのです。私どもも自信を持っていいと思います。

実は今年8月末、文科大臣から「静岡県を日本の文化の顔にしたい」という打診をいただきました。2014年から続く『東アジア文化都市の選定』の10周年にあたる来年、富士山の麓の静岡県で、というお話です。これはヨーロッパで1985年から続く、地域共同体における“文化首都”の選定を参考にしたもので、毎年持ち回りで、国ではなく自治体が対象になっています。日本ではこれまで金沢や奈良が選ばれていましたが、一般の人はほとんど知りません。昨年は初めて県レベルで大分県が選出され、来年は静岡県で、ということで、一昨日、大分まで引き継ぎ式に行ってきましたが、残念ながらこれもほとんどの人が知らないでしょう。

来年、富士山が世界文化遺産登録10周年を迎えます。この間、世界クラスの地域資源や人材が県東部から続々と生まれています。たとえばお隣、裾野市の深良用水は2014年に「疎水百選世界かんがい施設遺産」に登録されました。三島市の源兵衛川、沼津市の香貫用水も同様、駿河湾が2016年に「世界で最も美しい湾クラブ」に正式加盟したほど美しい海だからです。

ここは日本の景観を代表する山紫水明の美しい地域であり、ここで健康を考え、健康増進を図るということは、今、我々に求められていることだと思います。今日のサンフロント21懇話会は、おそらく20年後、「あのとき、新しいことが始まった」と振り返られるものになるに違いないと確信しております。静岡県としても大きな期待のもと、これまで尽力されてこられた方々に心からの敬意を表し、挨拶とさせていただきます。

基調講演

医療城下町から 医療田園都市へ

講師

静岡県立静岡がんセンター総長

山口 建氏



サンフロント21懇話会が 静岡県立静岡がんセンターの 最初の設計図を提案

私が癌の分野に入ってから50年近く経ちます。この間、いろいろなモノづくりにも携わってまいりました。〈巨人の上に立つ〉という言葉がありますが、先人が創り上げたものの上に立つと小さな子どもでも、より広くモノが見えるという意味で、Googleのscholarという文献調査のサイトのトップページにはずっとこの言葉が使われています。

静岡県立静岡がんセンターがネイチャーに紹介されたときに、著者がこの言葉を使ってきて、よく引用させてもらっています。モノづくりには理念、信念、熱意、好奇心が大切ですが、尖ったところがなければいいものはできません。そんなことを意識しながらやってきた中のひとつが静岡県立静岡がんセンターです。

地域の皆さま、県の皆さまの強いサポートを得て、開業以来20年間で約4万人の命をお救いし、2万人の方の安楽な看取りをさせていただきました。癌患者の診療にあたっては、全県で2割、県東部では5割の患者様を診療させていただいています。全県の病院ともコラボし、難治療の患者様はこちらで受け入れるという医療連携を取っております。

がんセンターとしては国立がん研、がん研有

明とともに国内トップ3の一角を担っており、海外を含めると世界で50位前後というのがニューズウィークによるランキングです。ランクインした日本の他の医療機関が100年以上の歴史を持つ帝国大学付属病院という中で、開業わずか20年の若い組織がランクインしたというのは職員の努力のたまものだと思っています。私自身は世界で一番患者さんのための治療を行っていると自負しています。

サンフロント21懇話会との関係ですが、静岡県立静岡がんセンターの設計図を一番早く出してくれたのがサンフロント21懇話会でした。これを参考にこういう病院が出来上がったわけです。

モノづくり・人づくり・まちづくり +カネづくり

ファルマバレープロジェクトのもう一つの大きな使命である“医療城下町”は、ほぼインフラ的には完成したと考えています。2002年4月にがんセンター、2016年9月にファルマバレーセンター新拠点が開業し、がんセンターでは雇用が2,300名で予算規模は400億円、ファルマバレーセンターは雇用340名で生産総額は300億円という規模です。

これまでの成果を振り返ると、モノづくり・人づくり・まちづくり+カネづくりがポイント

だろうと考えています。がんセンターが出来たことがモノづくりの最たるものですが、アウトカム（地域貢献）でいえば医療レベルの向上が静岡県全体で図られました。人づくりとしては医療人材の養成と雇用が創成されました。まちづくりでは長泉町が奇跡の自治体といわれています。カネづくりでいえば20年間で地元企業50社による医療クラスターが形成されつつあり、さらに進展が期待されています。

ファルマバレープロジェクトの間接的効果・波及効果でいえば、プロジェクト前は全国3位ぐらいだった静岡県の医薬品医療機器生産額が現在はトップに躍り出て1.2兆円規模となっています。目標の2兆円に向けてさらに努力してまいりたいと思っています。

静岡県全体の産業構造を見ると、トップは輸送機器、2位は電機、3位食料品で、医薬関連は4位にいますが、輸送機器と電機がやや落ち込んできている中、医薬関連がしっかりと存在感を示すことで、日本が一番といわれる経済複雑性指標を代表する産業構造になると考えています。

医療田園都市に必要な要素

20年を経てほぼ完成した医療城下町のインフラを今後どう発展させようかと考えたとき、医療田園都市という発想はいいなと思い、皆で1年間かけて考えてみました。

医療城下町は患者さんや企業をメインに考えてきましたが、医療田園都市は住民を中心に考えるプロジェクトになります。ひと言で言えばファルマバレープロジェクトをさらに進化させ、超高齢化社会の理想郷を創るということ。理想郷という言葉を知ると宮沢賢治のイーハトーブを想像されるかも知れません。

賢治は著作でイーハトーブを明確に定義したわけではありませんが、賢治の弟の孫に当たる宮沢和樹さんがその心を説明しており、賢治の中にあつた理想郷は天国や楽園ではなく、〈生老病死がしっかりある世界〉〈生老病死を

しっかり受容して生きる。知識や知恵でいろいろな見方ができる心の広い人が住む場所〉とおっしゃっていたそうです。あてがい扶持のような理想郷ではなく、住民一人一人が吸い上げて自覚していくということが大切だろうと思います。

超高齢化社会がもう一つのキーワードになります。何か限界集落のような社会を想像されるかも知れませんが、決してそうではなく、赤ん坊もいれば元気なお年寄りもいます。静岡県の標語の中の4つ―「学んでよし」「働いてよし」「住んでよし」「老いてよし」の社会の実現が理想郷になるだろうと。

医療田園都市に必要な要件としては、まずは医療城下町ファルマを基盤とすること。やはり21世紀の理想郷は所得が重要で、お金持ちになればいいかもしれませんが一定の収入がなければ持続はできません。そして産業・患者から住民への視点、超高齢社会への対応ですね。医療田園都市という言葉を知ると、医療は安心・福祉・介護、田園はゆとり・自然・住環境・食、都市は活力・高所得・交通インフラ・教育という要素にまとめられるかと思っています。

富士山があり美しい水に恵まれている。これは静岡県の大きな特徴です。食材は極めて豊富で東京では難しい庭付きの家も持つことが可能。首都圏の企業に勤める人がコロナ禍でも365日テレワークは成り立たない、やはり週に1度は会社に出なければと考えたときに新幹線通勤できる静岡県は非常に便利です。

教育に関しては県東部地区に4年制の看護系大学が増えましたし、がんセンターが出来たことで〈老いてよし〉も担保されています。静岡県は東海道線の主要都市にしっかりした病院が整備されています。唯一のネックが医師不足ですが、これが解消されれば日本トップクラスの素晴らしい医療地域になる。住んでいる人はあまり感じないかも知れませんが、理想郷を追求する資格を十分に持つ地域です。全国47都道府県の人に「日本の理想郷はどこか？」と訊けば、静岡県は必ず挙がるでしょう。東京を挙げる人よりも多いはずですよ。

基調講演

次の20年と ファルマバレー構想

講師

公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構理事長・
静岡産業大学総合研究所所長

大坪 檀氏



地域の発展のカギは雇用と 高所得化

サンフロント21懇話会が始まった頃、皆さんと一緒に勉強させていただきました。静岡県立がんセンターがここまでうまくできたのは、サンフロント21懇話会の皆さんが発案され、熱心にサポートされたおかげだと思っています。

山口先生が築き上げてこられた素晴らしい20年の次はどうするのか。日本ではなく世界のセンターになるべきではないか。20年の知識と経験をどう活かすかは、がんセンターではなく地域の産業人にかかっています。やるのは産業人です。そのことをぜひ今日は強調したいと思っています。

私は今93歳で、戦後日本の困難な時代をさまざま見てきましたが、人口が減る、人生100歳時代が来るというのは初めてです。大転換が始まったのです。

静岡県の人口もどんどん減っており、かわりに健康長寿に必要な医療介護費は増大しています。このままでは税収は減り、国内市場は縮小します。よく農業をやっている人が「最近の日本人は米を食わなくなった」と嘆いています。日本人は毎年、鳥取県の人口(50~60万人)ぐらい減っているのですから、それだけ米を食う人も減っている。静岡県でいえばそれだけお茶を飲む人が減っているのです。

魅力的な雇用も減ってきています。限界都市

とか限界集落が増え、地産地消しようにも地消できない。地場産業も縮小せざるを得ませんし、働く場所も減っている。

一方で新しい国際化が始まっています。今、125万人の外国人が日本で働いており、日本の市場は小さくなくても世界は大きくなっている。私が大学を出た頃、日本がお手本にしていたのはスイスでした。人口は少なく山と川ばかりだが豊かな国だった。シンガポールもそうですね。淡路島ぐらいの面積しかないがGDPは日本よりも高い。アメリカのノースカロライナは貧しい州でタバコぐらいしか産業がなかったのですが、州都にシリコンバレーのような大きな工業団地を造り、IBMやフラスコ(製薬会社)を呼び込んだのです。私も静岡県の職員と一緒に視察に行きました。

今後に必要なことは産業革新を起こし、高付加価値化にシフトし、成長産業をどんどん育てて国際化を図ることです。せっかくこのような立派なベースができたのですから、これを活用するにはなんといっても高度な頭脳労働者が必要です。

昔、工場を造りに吉田町へ行ったとき、真面目でいい人が多く、いい事業所を造ることができましたが、今の「いい人」とは高等教育を受けた高度な頭脳労働者です。そういう人材を創るためにも、静岡県の大学進学率をもっと上げる必要があります。

人間は賃金の高いところへ移動するもので

す。かつて東京は、今ほど人口は多くなかったのですが、高度な賃金を払う事業所を集めたおかげで人口が増えた。静岡県もそれをやらなければなりません。どんなに自然が豊かで美味しいものがあったても、子どもは産まれない。若者が定住しないからです。今後の地域の発展は産業政策—地域の雇用と高所得化にかかります。

やるのは行政ではなく産業人

はたして静岡県東部の20年後はどうなるのが理想でしょうか。理想的な人口や所得額はどれくらいでしょうか。人口が少ない少ないといいますが、日本の人口は終戦直後、7,500万人ぐらいでした。人口が減って大変だといいますが何人ぐらいならいいのか、所得水準はいくらか数字で考えるべき。静岡県はよくやっているほうだと思いますが、全体的に考えると将来どうなるか不安です。

長年企業にいて大学にも勤めた経験から言えば、大きな戦略を立てることが重要だと思っています。世界一じゃなければダメだと。世界一を目指せば、世界一の人材や産業が集まってくるのです。日本の自動車産業は、最初は世界

一になれるとは誰も思っていなかったが、GMに負けるなという大きな目標を立てて努力した。これが大事です。

93歳のごまめの歯ぎしりで闇雲に挙げてみました。次の20年の具体的目標として、世界企業を10社招く、国内スタートアップ企業を10社育てる。そして中小企業の付加価値化10社、上場化10社、スタートアップ人材100人を育てる。やるのは行政ではなく産業界です。そのための経営者育成が非常に重要で、ビジネススクールをつくり、大学や研究所をもっと活用してほしい。日本では博士号を取った人を企業はなぜか雇わない。「使いにくい」といいますが、発想を変えるべきです。

世界一の高付加価値産業・高度生活水準圏の達成に必要なのは、繰り返しになりますが強力なリーダーシップです。まずは産業人。静岡の産業人はかつてレベルが高く、戦後日本で最も牽引力が高いと言われましたが、今は世界をビックリさせるような産業人が出ていない。「社会を豊かにし、文化を創り、高い生活水準を維持することができるのは産業人だ」とブリヂストンの石橋正二郎からよく聞きました。それを行政が応援する。産業、行政、政治家の連携が重要です。

基調講演〈講師プロフィール〉

山口 建 (やまぐち・けん) 氏

静岡県立静岡がんセンター総長

1950年三重県生まれ。1974年慶應義塾大学医学部卒。1999年国立がんセンター(現・国立がん研究センター)研究所副所長。同年、宮内庁御用掛兼務。2002年より現職。現在、内閣府ゲノム医療協議会構成員、厚生科学審議会科学技術部会委員などを務める。2000年高松宮妃癌研究基金学術賞、2014年ISOBM ABBOTT賞(国際腫瘍学バイオマーカー学会賞)受賞。

大坪 檀 (おおつぼ・まゆみ) 氏

公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構理事長・学校法人新静岡学園 学園長・静岡産業大学総合研究所所長

東京都出身。1953年東京大学経済学部卒業後に渡米。1957年にカリフォルニア大学ロサンゼルス校経営学大学院にてMBAを取得。1958年株式会社ブリヂストンに入社。1987年より静岡県立大学経営情報学部教授・学部長・学長補佐を務め、1998年に静岡産業大学に移り、国際情報学部教授・情報学部教授を経て、学長に就任。2012年に学校法人新静岡学園の理事長に就任。現在は、学校法人新静岡学園 学園長・静岡産業大学総合研究所所長。

パネルディスカッション

ファルマバレープロジェクトが 描く未来—医療田園都市構想

パネリスト

- 池田 修氏（長泉町長）
- 青山 竜文氏（㈱日本政策投資銀行 設備投資研究所上席主任研究員）
- 野中 雅貴氏（㈱タウンズ代表取締役社長兼CEO）
- 山口 建氏（静岡県立静岡がんセンター総長）
- 大坪 檀氏（公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構理事長・静岡産業大学総合研究所所長）

コーディネーター

- 青山 茂氏（㈱シード副社長、TESS研究員）

（青山茂）先日の県の発表で、静岡県が初めて65歳以上の高齢化率30%を超えたとありました。ちなみにファルマバレープロジェクトが始まった20年前は18.3%。まだ超高齢社会と呼ぶレベルではなかったようです。今後さらなる高齢化が避けられない中、豊かな暮らしを継続する社会と生き残る手段が、今回の医療田園都市構想の柱になると思われま



青山 茂氏

収入の職場で働ける都市、首都圏への通勤や移住が期待される中で高度な能力を持つ働き手が増える都市、それが医療田園都市かなと感じておりました。

しかしながら豊かな暮らしを

支えるには豊かな経済が必要ということで、大坪先生はファルマバレープロジェクトが構築してきた医療城下町の産業クラスターとしての集積規模をさらに大きくし、ビジネスサイズをスケールアップすることが必要になると力説しておられました。とにかく発想のベースを〈世界一〉に置くことがまず出発点だと。世界一のがんセンターやがん研究の大学院、世界一のプロジェクトセンターを創る。そのためにも数値化した目標が必要だと強調されていました。

まずは自己紹介を含め、今現在、ご自身に取り組まれていることをお話してください。

（池田）私はもともと町役場の職員でした。通常役場は3～5年ぐらいで異動するものですが、平成元年から18年まで総務課企画係におりまして、その後も20数年企画を担当し、助役の杉山さんの鞆持ちとしていろいろ勉強させてもらいました。

静岡がんセンターは誘致から企画の担当として動き、県が東部に高度医療機関を造るらしいという情報をつかみ、6市町ほどの熾烈な争



池田 修 氏

いの末、長泉町に誘致することができました。県の具体的な病院コンセプトが出来上がった後、医療関連産業を集積させたまちづくり・県土づくりを構想していると知って、長泉に立地

が決まったがんセンターを活かしたまちづくりを考えようと計画策定委員になっていただく方を探していたとき、山口建先生ががんセンターに来られるだろうという噂を聞きつけました。当時、がんセンター研究所副所長だった先生のもとに、町の職員が怖い物知らずでノコノコ出かけ、委員になってくださいとお願いしました。今は三島駅北口から幹線道路を2回曲がるだけでがんセンターに到着しますが、当時は細く入りくんだ裏道を走って先生を役場までお連れしていたので「何か私に見せたい場所があるんですか？」と先生に問われたこともありました(苦笑)。

(野中) 当社タウンズは今春、唾液を検体とした抗原検査キットを日本で初めて開発しました。POCTといいまして、その場で検査し結果を出すスピーディーな検査機器の開発を得意としています。1987年に沼津市で創業し、2011年に伊豆の国市に本社工場を移転し、清水町にも研究所を設けています。3年以内に三島にも新工場を建設予定で、県東部地区に密着して今後も活動していきます。

主要製品である『イムノエースSARS-COV2』は2020年コロナが流行し始めたとき、国内3番手の抗原検査キットとして発売し、多くの医療機関に使っていただきました。インフルエンザと新型コロナを同時に検査できる

バージョンも開発し、生産準備をしています。

抗原検査キットとは大雑把に言えば、特定のウイルスのあるタンパク質に反応する抗体を作り、その抗体でウイルスをつかまえて目印を付けるということです。目印となるのが白金、金コロイドで、マーキングの技術を沼津高専さんと共同開発し、海外でも特許を取得しました。

ファルマバレープロジェクトとの関係ですが、2008年に白金、金コロイドが実用化して以来、すべての製品に白金、金コロイドを搭載しています。2010年から海外展開を始め、ドイツのメディカという世界最大の医療機器展示会に出展する際はファルマバレーに支援していただきました。代理店ベースで現在30カ国に販路拡大していますが、目標5年以内に50カ国。中長期目標としては感染症POCTの分野でのグローバルリーダー、感染症対策分野での世界のリーダーを目指しています。いずれは感染症のみならず、がんをはじめとした慢性疾患や発病リスクをいち早くとらえる検査機器を開発し、世界の健康長寿に貢献したいと考えています。



野中 雅貴 氏

(青山竜) 私は1996年に日本政策投資銀行に入行し、2006年ぐらいから医療分野への投融資を立ち上げの頃から担当しました。約15年間で、後半の7年間は海外と日本で一緒にやるプロジェクトにもファンドや投資を行ってきました。現在の設備投資研究所でも引き続き調査研究を行い、ライフサイエンスに関するエコシステムの形成についても勉強させていた

だいています。

世界のいわゆる医療機器や医薬品メーカーのエコシステムは、かなり役割分担が進んでいると考えられます。大学や研究機関のサイエンス部門がどんどん増えています。ファルマバレーはこれほど医療現場と開発者が近いエリアは世界探しても例がないと実感しています。医療現場との距離感の近さがこの大きな特徴です。サイエンスが重要になってきている今、キーオピニオンである医師との連携が非常に重要ですが、ファルマバレーではすでに出来上がっています。

とにかくクラスターやエコシステムを考えたときに重視すべきは、最終的にそこから生まれたものが患者さんに届いているか、次の人材をどれだけ育てられるかに尽きると思います。

長泉町の“奇跡”

(青山茂) 医療田園都市構想が地域にもたらす新たな可能性ということで、池田町長は長泉町や近隣市町に与える影響をどのように考えておられますか？

(池田) 長泉町は、平成11年は2,830億円と近隣市町で最下位だった製造品出荷額が、令和元年度には4,500億円を超えました。数字上は静岡県内35市町中で13位、町ではトップです。長泉町は26.63km²で県内では3番目に小さな町ですが、面積で割り返してみると湖西市に次いで平方キロ当たり169億円という生産活動をしています。地域の企業の皆さんの努力の証だと喜んでいきます。

地域にお金を落とす仕組みを作らなければという議論の中で、小売業の年間販売額を調べたところ、長泉町は近隣市町326億円と一番低かったのが、平成28年度は431億円にふくらみました。販売額が伸びた原因は、長泉町の所得向上です。平均所得額は3,952,810円、

収入では500万円を超える数字で、2010年に全国で102位だったのが、2021年には61位までに上がりました。1,000万円を超える世帯は12%で全国10位です。地価の公示価格は県内1位。住宅地を含めた全調査ポイントで見ると、地価は県内で最も高い自治体となり、商業地もベスト5に入るエリアになっています。

これらは長泉町がファルマバレー構想に基づいて、まちづくりをした成果だと思っています。新しい医療田園都市構想では新たな項目も加わり、今後どうなるかわかりませんが、今の長泉町では子育てや教育も含めて一番早く取り組んだ結果、善の循環となり、いち早く成果が出ていると思っています。この先は面白い人間が集まってくる町、エッジの効いた人たちが集まってきて、町民とかわかることで何か新しいことや、新たな活性化が生まれるのではないかと期待しています。

高度な人材に住みたい・働きたいと思わせる地域に

(野中) 今後の成長のためのボトルネックはやはり人材ですね。次世代の医療検査機器の開発にはAIやデータサイエンティストというような、今まで採用したことのない人材も必要になってきます。優秀なデータサイエンティストを新卒で採ろうと思うと、年収3,000万円を用意しなければとも言われています。IPOの人材も必要になってくると思いますが、優秀な人材は東京の企業との取り合いになり、「妻が東京に住みたいと言っている」となればどうしようもないので、よりよい住環境を武器にすることが重要になってきます。その意味で医療田園都市構想には期待しています。

起業という観点で考えれば、当社は年平均3件ぐらいのスタートアップ企業と業務提携をしています。我々が持っていない技術や切り

口を持つ浜松の企業と積極的に提携を進めています。現状では県東部地区の企業と連携がないので、今後に期待しているところです。

県東部のスタートアップ企業を育てるため必要なのは、ひとつはベンチャーキャピタルの仕組み。お金だけでは県東部で起業するインセンティブにならないので、ここならでは、ファルマバレーのようなレベルの高いインキュベーションセンターも必要です。当社だけでは無理なので、ファルマバレーに仕切ってもらって、県東部企業の相乗りで新しい起業家の誘致が進めばと願っています。

(青山竜) 私の個人的な感覚ですが、今のベンチャーキャピタルは地域土着性をあまり重視していません。テクノロジーそのものを見て、エリアを問わず動くファンドがかなり増えてきています。この地域にあることも重要ですが、この地域の魅力そのものがどう伝わっていくかのプロセスが重要かなと。

ベルギーのフランダース地区にある中央研究所は、先ほどの大坪先生のお話にもつながりますが世界のトップランクの研究者を集めるために25年間努力してきました。最終的に



青山 竜文 氏

彼らは世界中から集めた研究者にとにかく5年間の時間を与えた。成果が出ればさらに5年継続できます。このようなグローバルな人材

オックスフォードやケンブリッジに並ぶようなトップ10に入る研究論文が多く輩出されるようになり、それが基盤となり、ベルギーの時価総額はこの10年間でEUトップ3に入るようになりました。

が集まる枠組みをつくり、維持成長させることができれば新しいモノが見つかり、企業も増え、関係性が構築されます。エリア付近には海外から来るドクターが住みやすい住環境も整っています。

住民がどのようなかたちで生き生きと暮らせるか。高齢者のみならず、研究や開発のために来る若者や高度な頭脳労働者を住民として呼び



山口 建 氏

寄せるしくみですね。〈人材〉はこれまでのファルマバレー構想でも中心に置かれていましたが、今後さらに重要になってくると思われます。

(山口) 住民の中には当然、学者や医療従事者も入ってきます。人口5万人の長泉町の中で5,000人が医療従事者です。静岡がんセンターでは「あそこならいい働きが出来る」という場所をできるだけ用意しようと努めてきました。他のがんセンターよりも進んだ最先端機器を準備し、若い研究者が「あそこならこういう研究が出来る」と思える環境です。

そういう人たちが東京ではなく静岡県東部を選んでもらうには、教育や文化レベルの向上も必要です。家族という観点から見れば文化レベルはとても重要です。最近気になったのは、沼津市から大型書店がなくなってしまったことです。少しずつでいいからこの地域の文化レベルに気を遣っていただきたい。以前、裾野市に学者村という構想があって実現しませんでした。今後の20年を考えると、世界一を目指すのが重要なポイントで、東京や大阪と比較しての住み心地も重視すべきです。

日本人にとって静岡県は理想郷に近いエリア

には違いありません。あと少し頑張れば理想郷は達成できると思います。県民の皆さんがそのことを強く自覚していただく必要があります。自然や食が豊かで交通至便。これにプラスした何かを各地域が考えていただければ。沼津なら鉄道高架をするだけが目的ではなくその先に何をやるかです。地域の特性をどうやって加えて、いかにアピールしていくかです。

(池田) 長泉町は自治体の文化として、一度やり始めたらこだわろう、他の町より早くやろう、やれることはすぐやろうというかけ声があります。がんセンターが出来たとき、山口総長は全職員にファルマバレーのために10%の時間を使えと号令を掛け、「世界の寿命は静岡県が延ばします」という新聞広告を打ち出した。すごいなと思いました。我々もそういうことにこだわろうと。

現在、開催しているがんセンター市民講座は、最初に長泉町で開催しました。がんセンターのある町でがん検診を積極的に進めようと健診費用を無料化し、胃がんの要因であるピロリ菌検査も全中学校で無料開催しています。がんセンターのある町として、徹底的にがん検診をやろうと。同じやるなら早くやる、他の市町でやっていないことをやるというこだわりですね。長泉町は商業が弱いといわれていますが、新東名のインターチェンジを中心に開発を進め、来年3月に大規模商業施設と子育て支援施設をオープンさせる予定です。

医療田園都市構想を支える 経済基盤

(青山茂) 県東部の他の市町に、医療田園都市構想に参加する動機付けをどうやったら与えられるでしょうか？

(大坪) ようは資金ですね。いろいろなアイデアがあっても、そのお金をどうやって生むか、

誰がいつまでにやるのか、いわゆる地域経営の問題として具体的な目標設定が必要なのです。沼津市なら所得はどれくらいで人口を何人ぐらいにしたいのか。とくに税金を納める産業人をどう増やすのか。とにかく産業人を応援しなければなりません。

昔、アメリカのある州知事からブリヂストンに進出してほしい、投資をして欲しいと何度もオファーがあり

ました。学校も用意し、病院も大丈夫、道路の名前まで変えてくれたのです。どうしてそこまでと思いますが、ようするに雇用と税収を上げたいのです。

「私たちの役割はいかに投資を

呼び、いい雇用を生んで税収を上げることなのです」と言われました。

頑張りの中心は産業人ですが、行政の役割も重要です。県東部地区はそれができるポテンシャルがあります。産業人はコストや安く喜んで働ける場所を求めていますから、行政は行政で、トップ自ら世界中を回って企業誘致をやるべきです。外資が来れば大儲けですよ。雇用を生んで世界の市場を持ってきてくれるのですから。

教育の問題もあります。日本の経営学はサラリーマン育成に向いていますが、アメリカのビジネススクールはアントレプレナーを育てます。たとえば県民ファンドを設け、出世払いでいいからアントレプレナーに貸し付けるという手法もあると思います。中小企業も上場できるよう支援する。そういう仕組みを誰か考えてくれませんか？

とにかくお金がなければ何もできません。



大坪 檀 氏

静岡がんセンターが出来たのは静岡県にお金があったからでしょう？

(山口) 初期投資で600億円、20年間で合わせておそらく1,200億円ぐらい投資しています。

(大坪) 当時の静岡の産業人は頑張っただけで稼いでいたのですね。今はそれほどの余力はないでしょう。次の20年間、頑張っただけで稼ぎましょうよ。今の長泉町のように好循環をどこかで創らなければなりません。

今のように、産業がやりやすい時代はありません。政府もどんどん支援してくれるし、人材は世界中から集めることが出来ます。そのための度量がこの先求められるでしょう。

(青山茂) 先ほどの川勝知事のお話にあったようにイギリスのハワードが19世紀に田園都市を実現させましたが、彼はもともと経営学者ではなくただの速記者でした。彼は財界人や政府の役人を口説きまくって実現させた。がんセンターのそもそもの発案は誰だったのですか？

(山口) 最初のきっかけは代議士の杉山憲夫さんで、国立がんセンターに入院されたとき、「ここで受けられる医療を静岡県民にも受けさせたい」とおっしゃった。就任したばかりの石川知事がお見舞いに来られたとき、その話をされ、同席していた私が「カネがかかって大変ですよ」と話した記憶があります。

最初のブレインストーミングは県庁職員2人と私の3人だけでやりました。県の財政は当時も厳しく、県立病院に何百億も投資していいのか問われました。そのとき、県企画部から「病院を核とした産業興しをやってくれないか」という話になり、計画の段階でがんセンターの運営と医療健康産業の活性化を図ることを2つの使命にしようということになった。現状7~8割は達成できたと思っています

が、この先は医療や行政の力だけでは無理で、産業人の皆さんに頑張っただけでいただかなければなりません。

今、県東部の信用金庫の皆さんが積極的に投資の動きを始めており、山梨県の信用金庫も巻き込んでくれています。流れは徐々に出来つつありますが、問題はスピード感ですね。グローバルな時代のスピードに追いついていくのか、ちょっと心配です。

(青山茂) がんセンターは天からポコンと降りてきたわけではなく、最初に造るときは大変なご苦労があり、3人で始まったプロジェクトが、今はがんセンターだけで2,300人の雇用を生んでいる。何かが生まれて発展するというのはこういうことですね。

(野中) 企業の立場で人材に関して言えば、東京からの移住者を増やすためには、まずどのような人材がいるか知る必要があります。人材バンクのようなスキルも必要です。必ずしもヘッドハントではなくても、副業やパートタイム、業務委託でもかまいません。貴重なリソースを有益に活用できればと考えています。

ヒューマンズデータという会社は個人のヘルスケアデータをNFT(非代替性トークン)にして実証実験しています。個人の情報はブロックチェーンで保護し、データ提供者には相応のメリットを与えるという仕組みですね。ヘルスケアに感度の高い人が集まるエリアならヘルスケア特区として有効活用し、数万、数十万単位で有用なデータを集め、新しい産業創出につなげられたらと思います。

(青山竜) データ活用の観点でいえば、フルセットで何かを創ろうとするとお金も時間もかかりますが、医療データを匿名化し活用し、開発に利用する動きには国も積極支援しており、フルスイングではなくパッチワーク的に今あるものをうまく活用する陣頭指揮を、医療機関や

自治体で検討するのが肝要かと思います。

このエリアはスタートアップの出現も大事ですが、なんといっても中小企業や中堅企業がファルマバレーとともに形を作ってきた歴史があるので、中小企業が最後まで自分たちだけ

で歯を食いしばってやろうとするのではなく、役割分担をうまくやっていけるようになればとも思います。

(青山茂)ありがとうございました。



〈出演者プロフィール〉

池田 修 (いけだ・おさむ) 氏

長泉町長

1980年、長泉町役場に奉職。2004年、企画財政課長。2007年、教育部長。2008年、総務部長を務める。2013年、副町長に就任。2017年、長泉町長に初当選。現在2期目。

青山 竜文 (あおやま・たつふみ) 氏

株式会社日本政策投資銀行 設備投資研究所 上席主任研究

1996年日本開発銀行(現・日本政策投資銀行)入行。2005年米国スタンフォード大学経営大学院留学(経営工学修士)を経て、2006年よりヘルスケア向けファイナンス業務立ち上げに参画し、以降同業務に従事してきた。2021年(一財)日本経済研究所常務理事を経て、2022年より現職。

野中 雅貴 (のなか・まさき) 氏

株式会社タウンズ 代表取締役社長兼CEO

1975年、静岡県生まれ。沼津東高等学校、東京大学経済学部卒。太田昭和監査法人(現EY新日本有限責任監査法人)などを経て、2007年、株式会社タウンズ入社。2013年、代表取締役に就任。現在に至る。

青山 茂 (あおやま・しげる) 氏

サンフロント21懇話会TESS研究員、株式会社シード取締役副社長

(株)シード取締役副社長、(株)スポーツ・ウェルネス総合企画研究所代表取締役社長。静岡県内外の企業および自治体のプロジェクトのコンサルティングから事業プロデュースまで幅広く手がける。ふじのくにしずおか観光振興アドバイザー。サンフロント21懇話会のシンクタンクTESS研究員。

ラジオマイトーク

令和4年10月23日放送



大河ドラマ館から史跡周遊の「歴史観光」好評

やま した まさ ゆき
山下 正行氏
伊豆の国市長

モットー ▶ 誠実、
Where there is a will, there is a way.
趣味 ▶ フォルクローレ(中南米音楽)、山登り、カ
ラオケ、愛犬(トイプードルのメス10歳)
出身地 ▶ 伊豆の国市(旧韮山町)

お話のポイント

♠市長に昨春就き、市の魅力などの情報発信に努めています。大河ドラマで北条家ゆかりの当市が注目されているのを利用し、観光と農産物を首都圏でPR。大河ドラマ館の来場者はコロナ禍を勘案して年間目標10万人でしたが、7月に突破しました。
♥大河ドラマ館から市内の史跡を周遊する歴史観光が広がっています。源頼朝配流の地とされる蛭ヶ島公園まで歩き、頼朝と北条政子の夫婦像と写真を撮ったり、富士山を眺めたりする方も目立ちます。今後はまち全体がミュージアムという発想で盛り上げたいと思います。

◆国の補助金を活用して廃墟の旅館を取り壊し、温泉場を再生する動きを市も支援し、多様なニーズに応えうる温泉街ができれば。感動する景観、もう一度味わいたいと思わせる食、温泉やアウトドアなど体験、世界遺産韮山反射炉や世界ジオパークといった知的好奇心を満たす歴史など、まちおこしの要素は多く、これらをフル活用して交流人口を増やします。
♣フォルクローレの演奏活動をしていた学生時代の仲間らと市内で演奏会を先日開き、私も飛び入りで3曲披露しました。

令和4年10月30日放送



医療、予防医学、福祉で地域医療に全力

いけ だ まこと
池田 誠氏
医療法人社団聡誠会
池田病院理事長

主義 ▶ 努力
モットー ▶ 生涯現役
好きな言葉 ▶ 苦難福門
趣味 ▶ カメラ撮影、ドライブ、ゴルフ
出身地 ▶ 富士宮市

お話のポイント

♠現在89歳。1970年に開業し、一昨年50周年を迎えました。開業前は沼津市医師会病院の外科医長でした。開業のため。父が1千万円と土地を用意してくれたものの、建物の資金調達に苦労し、最後は三島信金に貸していただきました。
★開業以来、年中無休で救急・手術・往診明け暮れ、3年で借金を完済しました。現在も無休を貫けるのは病院に家族で住んでいるから。私と子ども3人とその結婚相手の全員が医師です。
♥がんの手術がうまくいっても、既に転移して

いる方が多いのを残念に思い、予防医学に着目し、県東部初の健康管理センターを設立しました。介護老人保健施設「博寿園」設立も老人福祉問題の初期でした。当時の国は老健にまだ懐疑的。しかし福祉と医療、予防の同時提供は現在、理想的な地域医療とされています。
♣毎日診療し、患者に喜んでもらうのが生きがいです。今日も検診バスに乗って、一人一人と話をしてきました。開業後に一から経理を勉強した妻は内助の功どころか、事務局長として今や経営の要。私も命のある限り現役を貫き、地域医療に専念していく覚悟です。

サンフロント21懇話会の 会員情報

■ 会員の変更

- ◇沼津リバーサイドホテル… 代表取締役専務 山下 顕広 → 総支配人 山崎 竜起
- ◇静岡銀行…………… 常務執行役員東部カンパニー長 村山 栄之
→ 常務執行役員東部カンパニー長 石井 英司
- ◇白幸産業(株)…………… 代表取締役 臼井 良太 → 代表取締役 臼井 康晴
- ◇(株)伊豆フェルメンテ…………… 代表取締役社長 桐部 都宏 → 代表取締役 小川 成俊
- ◇富士商工会議所…………… 会頭 牧田 一郎 → 会頭 浅見 祐司
- ◇アスルクラロスルガ(株)…………… 代表取締役社長 渡邊 隆司 → 代表取締役社長 高島 雄大
- ◇静岡ガス(株)東部支社…………… 支社長 五島 昭浩 → 支社長 後藤 友彦

〈お詫びと訂正〉

会報127号・26ページの「会員情報」に誤りがございましたので、お詫びして訂正いたします。

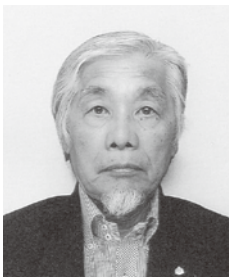
■三島信用金庫 理事長 高嶋 正芳 様 (誤)高嶋 正芳 → (正)高嶋 正芳

■富士伊豆農業協同組合 代表理事組合長 鈴木 正三様

南駿農業協同組合、三島函南農業協同組合は2022年4月1日に他県内6JAと合併し、富士伊豆農業協同組合を発足しました。

訃報

謹んでご冥福をお祈りいたします。



一杉 真城(ひとすぎ・まさき)氏

前ヒトスギ塾会長、サンフロント21懇話会運営委員

12月1日、急性リンパ性白血病のため長泉町の県立静岡がんセンターで死去。77歳。旧満州(現中国東北部)生まれ。1963年、沼津市で学習塾「ヒトスギ塾」の前身となる英数教室を創業。沼津を教育の町にするため尽力した。

